



障がい者スポーツを支援していくために 「障害者スポーツ応援協定」に署名

兵庫県遊技業協同組合 「2020年東京パラリンピック競技大会に向けた障害者スポーツ応援事業及び恒久的な支援」事業



兵庫県遊技業協同組合
理事長
岡本芳邦さん



2003年から継続支援をしている「全国車いすマラソン大会」

車いすマラソンやスペシャルオリンピックスの 支援で障がい者のスポーツ参加を応援

兵庫県遊技業協同組合（以下、兵遊協）では、組合運営の基本の一つに「社会貢献活動の積極的な推進による県民からの信頼の獲得」を掲げ、企業の社会的責任を果たすために様々な社会貢献活動に取り組んでいる。その中でも特に障がい者施設などへの各種支援に取り組み、端玉賞品への授産商品の導入やイベント等での授産商品販売の協力、障がい者福祉団体への財政的支援や車いす対応の福祉車両の寄贈などを継続的に行っている。

また、障がい者がスポーツに親しむことを通じて、健康づくり、生きる喜びや希望の実感、自立や社会参加につながるなどの思いから、障がい者施設や団体の活動への支援を行っているが、とりわけ毎年、兵庫県篠山市で開催される「全国車いすマラソン大会」には2003年の第15回大会から支援を続けており、毎年、兵遊協理事が協賛団体として開会式に出席して、選手の激励を行っている。これまでの大会支援総額は2,200万円に上っているが、この大会では、開会式場、パンフレット、ポスター、スタート／ゴール地点のアーチ、スタッフジャンパー、競技用車いすのゼッケンに組合の名称が協賛団体として表示されており、兵遊協の社会貢献活動の広報にも役立っている。

さらに、昨年のトピックスとして、知的障がいを持つアスリートによる競技大会である「スペシャルオリンピックス日本2017近畿ブロック大会」に対して、兵遊協が実施している



障害者スポーツ応援協定締結式において井戸知事を囲んで記念撮影



支援した「スペシャルオリンピックス日本2017近畿ブロック大会」

「はあ〜とふるふあんど」の「ふるさと振興サポート」部門を通して95万円を贈呈したことがあげられる。この大会は4年に1回開催され、昨年9月に行われた第2回大会には、近畿地方2府4県から選手、コーチ、ボランティアなど約650名が参加し、陸上、サッカー、水泳、テニスなど9種目で熱戦が繰り広げられた。

東京パラリンピック競技大会に向けて 「障害者スポーツ応援協定」を締結

このような障がい者に対する継続的な支援活動が評価され、一昨年末には公益財団法人「兵庫県障害者スポーツ協会」から、2020年の東京パラリンピック競技大会に向けて障がい者スポーツの輪を広げ、選手のサポートと、そのレガシーを継承していくため、県下の大学、団体、企業との協定を進める「障害者スポーツ応援協定」への締結の依頼を受け、兵遊協として検討を重ねた結果、これまで以上に障がい者スポーツへの応援を図ることで、東京パラリンピックの成功の一助になるという結論に達したため、同協定を締結することにした。

昨年2月には、神戸ポートピアホテルで「G7神戸保健大臣会合開催記念 国際義肢装具協会世界大会2019プレイベント」と題された関係者による講演、パラリンピックアスリートによるトークショーに引き続いて障害者スポーツ応援協定の締結式が行われ、井戸敏三兵庫県知事の挨拶の後、兵遊協を含む県下の企業、団体、大学など46団体に対して、知事から順次、協定書の授与が行われた。こうした協定は全国でも初めての試みであり、新聞、テレビ、ラジオなどでも大きく報道された。

さらに7月には、県庁内で行われた障害者スポーツ応援協定団体研修会に参加し、日本財団パラリンピックサポートセンターによるセミナーを受講したほか、9月には第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」の兵庫県選手団結団式にも、評議員として出席し、出場選手にエールを送った。